

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	教育学部
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 完成年度である2013年度以降の教育学部再編に併せて教員組織の検討を行う。	→「将来ビジョン委員会の開催頻度」	B	B	A	A	A
2. 教育学部の特徴として免許資格取得が可能となる教員組織を整備する必要があり、その点に留意して再整備を進める。	→「教育学部再編に当たっての取得できる免許資格の検討と、それに対応した教員組織の整備」	B	B	A	A	A
3. 教員の採用・昇格の学部内の内規・申し合わせの点検と評価を行う。	→「内規及び申し合わせの見直し作業の進捗状況」	B	B	B	A	A
4. 教員の資質の向上と授業改善を図るため、FD研究会を開催する。	→「FD活動にかかわる研修会等の開催頻度と参加者数」	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
		/	/	/	/	/
		/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2014年度からの特別支援学校教諭免許課程の設置に向け、特別支援学校教諭免許課程のためのワーキング・グループ(特支ワーキング)のメンバーが中心となって、適切な教員組織となるよう科目担当者を検討し、必要な人材の獲得に向けて努力した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 特別支援学校教諭免許課程(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)に対応した適切な教員組織となるよう、専任教員3名の人事を行った。特別支援学校教諭免許課程については、2013年度に認可された。今後は、専任教員と非常勤講師のバランス等、教育課程実施に伴う教員組織の課題を整理し、検討する必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部の将来構想を踏まえ、学部全体の教育課程の充実をはかるために、将来構想委員会、教育学部教務委員会が中心となって課題を整理し、検討すると共に、特別支援学校教諭免許課程の教員組織のみでなく、学部全体の教員組織の適切性についてさらに検討する考えである。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部再編に伴う取得可能な免許・資格課程に対応した教員組織については、将来ビジョン委員会、教育学部教務委員会、特支ワーキング等を経て学部長室会で検討し、教授会で承認された。また、必要な人材の確保については、公募等の方法により募集し、人事委員会を設置して、大学および学部の規定に従い、教授会で人選を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 取得可能な免許・資格課程に対応した教員組織のために、必要な人事を行い、適切な人材を確保することができた。今後、免許・資格課程の課題を整理し、教員組織の適切性について検討することが課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 近い将来の定年退職予定者の後任人事も視野に入れながら、将来構想との関連において、免許・資格課程の教員組織のみでなく、学部全体の教員組織の適切性を検討する考えである。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度末に、昇任人事に関する申し合わせ事項を見直し、2013年度より、教員の昇任に関する検討と教授会での発議を行うための昇任人事委員会を設置することを教授会で決定した。2013年度には昇任人事委員会より昇任人事委員の役割や人事の手順に関する申し合わせ事項が提案され、教授会で承認された。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度に、昇任人事委員会の発議による昇任人事が行われた。申し合わせ事項の中で、教授会での発議前の準備段階の手順について、具体的記載がないため、今後検討する必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 昇任人事委員および委員会の役割と人事の手順について、申し合わせ事項に、これまでより詳細で具体的な記述が必要かどうかを、その内容も含め、昇任人事委員会で検討する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆

目標4	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 目標を設定した年度以降、毎年、FD委員の提案の下に、年2回(学期毎)のFD研究会を開催している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 年2回開催されるFD研究会には、大部分の教授会メンバー(任期制教員を含む)が参加している。しかし、その内容は、必ずしも直接教員の資質向上や授業改善を図るものとは言い難いものも含まれていたため、今後は、FD研究会の内容を検討することが課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教員の資質向上や授業改善に関する教育学部の課題を整理した上で、その課題に応えるための内容をFD委員を中心に検討する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆